

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	調布市子ども発達センター
------	--------------

公表日 令和7年 2月 6日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		○療育室以外にもホールや園庭、個別室、屋上を利用し、活動内容に合わせた部屋割りを4クラスで話し合い活動しています。 ○クラスを2グループに分け少人数で活動するなどしています。 ○発達支援事業の部屋を借りられる場合もあります。	●少人数での活動において使用できるスペースがあるとよいと考えております。限りあるスペースの中で部屋の使用の仕方を常に話し合い、発達センター内での調整を行い支援にあたります。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		○定員に対して、基準以上の職員を配置しています。集団療育の中で、必要に応じて個別対応を行うなど、一人ひとりへの丁寧な支援を行っています。 ○常勤、非常勤問わず、配属クラス以外のクラスにも入り、全職員で全ての子どもを見ることが意識で支援にあたっています。	●職員数が充実しているため、一人ひとりにじっくり向き合うにはよい人数ではありませんが、子どもの自発的な行動を促すためにも職員の関わりが過剰にならないよう支援の質を高めてまいります。 ●職員の突発的な休みなどでいつもより人が少なくなることもありますが、基準人員以上の人は配置していますので、職員の役割分担を適切に行っていき、また職員のスキル向上に努めます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		○掲示物を減らしたり、目隠しをしたりして子どもの目に入る刺激を減らし、情報がわかりやすいようにしています。 ○スケジュール表や絵カードを使用し理解につなげ、見通しを持ち安心して過ごせるようにしています。 ○行事の時にはスケジュールをわかりやすく伝えるように心がけています。	●廊下等の環境設定（置くものを整理する、目隠しする等）は、意識が薄れてしまうことがあるので、整えていきます。 ●音や泣き声に敏感な子どもたちにとっての環境を背景にある理由も考えながら対応していきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		○毎日の清掃、整理整頓を心がけています。 ○心地よくなる個人の価値観で違いますが、清潔には気を配っています。 ○午後の活動では子ども自身が活動を選んで過ごせるような空間を部屋ごとに設定しています。	●物の収納については課題です。収納スペースの有効活用、廊下にあるものの置き方、整理整頓を行ってまいります。 ●トイレの床が冷たく、裸足で入りづらい子がいるので、設備環境として検討していきたいです。 ●廊下の印象が暗く、冷たい感じがするため壁紙の工夫等で優しく入りやすい雰囲気を検討します。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		○個別室前の前室に個別対応できる空間を作り、落ち着ける環境として頻度高く使っています。 ○部屋の空き状況にもよりますが、子どもの状況により、個別の部屋が使用できます。	●スペース、部屋には限りがあるので、簡易的な仕切りやテント等で安心が守られ、気持ちを落ち着けられる個別の空間を検討していきます。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		○毎日療育後にフィードバックの機会があり、広く職員が参加しています。クラス会を持ち、支援の方針等の話し合いを多く設けています。 ○日々のことだけでなく、例えば行事については全職員が計画段階で説明を聞き、疑問点を出し合って改善したり、行事後は反省会を行い次につなげていくなど、現場での実際の意見を業務改善に生かしています。	●日々の振り返りについては、勤務日数の少ない職員もいたり、バス添乗などの業務で入れないこともあるが、バス添乗のローテーションを工夫するなどしてできるだけ職員が参加できる機会を設けていきます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		○保護者評価に加え、父母会からのアンケートも実施しております。 ○令和6年度は、「延長支援」に関する意向の調査も実施しました。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		○日々の振り返り、週一の職員会議、職員面談、グループワークを取り入れた研修等、意見を把握する場を設けています。 ○職員が、日々感じたことを発信しやすい雰囲気づくりを心がけています。	●業務改善のために発信した意見に対応するのに時間がかかったり、進まないこともありました。個人やクラスだけでは対応できないこともあるので、組織として考えていくために、主任や管理職が話を聞き、調整していくことは今後も続けていきます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		○第三者評価を3年に一度受審しており、業務の見直しに役立てています。今回は令和7年度を予定しています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		○事業所内、法人内、外部研修等、研修の機会は多くあり、日々の研鑽に生かすことができている。 ○研修のビデオを撮って、後日受けられる工夫もしている。	●参加できなかった研修があると個人差が生じてくるため、受けるべき研修がわかり、積極的に受講しているような研修計画の立案をしています。 また、短い時間でも学びができるように、「サポーターズカレッジ」という研修動画システムを導入します。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		○令和6年9月に支援プログラムを公表しています。	●支援プログラムの内容については、適切なものであるか定期的に見面していただくことも必要です。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		○アセスメントシート、目標振り返りシート、サービス提供記録、面談等で課題やニーズの確認を行っています。	●KIDS等の発達検査の結果を活用して、分析し子どもについて共通理解していくことは強化すべき点です。

13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		○計画にはクラスの状況や起こりうることを想定し、支援に関わる職員で話し合い作成しています。	
14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		○計画に添った振り返りを毎日実施することで、職員間への意識付けにつながっています。	●職員の個人差もありますが、共有できていない部分もあるので、職員一人ひとりが目的を持って支援できるように常に学んでいくことが必要です。 ●計画に沿った支援を行う努力はしているが、クラスの動きとなると個々への配慮が不足していることもたびたびあるので、ポイントを抑えて支援することを心がけます。 ●自分の配属クラス以外の児童の計画も把握できる仕組みを工夫していけるとよいです。
15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		○KIDSや発達検査の他、他専門職による見立て等も参考にしています。 ○職員間で日々の子どもの行動について振り返りを行い、記録し情報の共有をしています。	●アセスメントについての知識や技量が職員によって差があるので、チームで取り組めるとよいです。
16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		○令和6年度より、支援計画の様式も変更し、より項目を意識して作成しています。	●支援内容が適切であるかは常に振り返りをしていきます。
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		○クラス職員で話し合い、現在の子どもの発達を考えたうえでプログラムを考えています。 ○リーダーが立案し、スタッフが意見を加えることがあります	●職員の経験により差が生じることのないよう、チームで取り組み、より有効的な支援ができる活動プログラムとなるように、工夫していきます。
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		○同じ活動でも一部設定を変えるなどして変化をつけるようにしています。 ○季節ごとの活動を行うことや、子どもの特性をとらえ活動プログラムが実施されています。	●固定化せず、子どもの発達段階に合わせてプログラムを考えていけるよう、子どものアセスメントを行い、支援目標に合ったプログラムを立案していきます。 ●公園等、外に遊びに行き身体を使う機会も増やしていけるよう、調整をしていきます。
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		○専門職が入り、親子個別、作業活動、運動療法、小集団のグループ活動などを子どもの状況に合わせて実施しています。	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		○支援前には全体のミーティングで情報共有し、またクラスごとに役割分担活動内容を確認しています。 ○短時間で要点をとらえて手短な打合せではありますが、チームでポイントをとらえています。	●朝の送迎バスに添乗している人は情報確認伝達が不十分になることが多いですが、ポイントを伝えられるようにしていきます。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		○療育終了後、14:30から15:10までクラスごとのフィードバックができる時間としています。時間を見直したことで、より具体的な話を共有できるようになりました。気づきを共有しています。 ○この事業所に入職して、よかったと思える点です。ミーティングがありがたいです。	●バス添乗などで参加できない職員もいるため、ローテーションなどを工夫していきます。 ●少ない人数でも、振り返りができるように形式を整え流れを作っています。 ●振り返りの内容が、打合せに参加できなかった人にも伝わるように記録をしているので、目を通して自ら積極的に情報をとる意識を持ちます。 ●振り返りと次につなげる話までセットで行っていきます。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		○サービス提供記録と、日々の支援の振り返りシートの書式の改定を行い、具体的な支援の検証、改善につなげていけるように工夫しました。	●書式変更もされたので、記録から検証することもう層充実させていきます。
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		○期間を定めてモニタリングを実施しています。	
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		○関係機関との会議にはクラス担当が参加して情報共有をしています。	●サービス担当者会議としてではなく、相談担当よりクラス職員が聞き取りがあります。セルフプランの児童もいますが、相談担当が1名ついています。
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		○同じ建物で市と法人が事業を行っているため、関係機関との連携がしやすいです。 ○医療機関との連携も必要に応じて行っています。	
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		○情報共有を行ったり、見学等にも同行することもあります。	
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		○就学支援シートの作成を行っています。学校の担任の先生と電話や対面で情報共有しています。	

関係機関や保護者との連携	28	(28～30は、センターのみ回答)	○		○事業所連絡会に参加し情報交換をしています。	
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。	○		○医師、言語聴覚士、作業療法士、音楽療法士などの各種専門家による研修を実施しています。 ○外部研修にも参加しています。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		○子ども若者支援地域ネットワークの構成機関として連絡会に出席しています。	
	31	(31は、事業所のみ回答)	○			
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		○交流保育を5歳児に対して年3回実施しています。	●3歳児、4歳児の交流の機会がないのが課題です。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		○連絡帳では毎日の子どもの様子を伝えあっている。また電話連絡や、保護者が来所された際に情報共有をしています。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		○保護者向けの勉強会を実施しています。 ○月1回の音楽療法、言語心理療養は保護者の方にも参加していただき、子どもへの対応方法を伝えられる機会としています。		
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		○利用契約時や保護者会等で説明しています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		○必ずご家族の意向は伺っています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		○面談時に支援内容の説明をして、同意を得ています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		○年3回の面談の他、必要に応じて個別に対応しています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		○保護者同士の交流の場は、父母会の活動の支援、保護者会や親子行事の機会を通して作っています。	●きょうだいの交流については、行事の中で検討していけたらと思います。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		○可能な限りすぐに対応しています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		○園だより、保健だより、給食だより、食育だよりにて保護者に情報をお届けしています。	●ホームページやSNSの活用も良い、保護者だけではなく、外部にも事業所の活動を周知していけるよう検討します。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		○全職員に個人情報の取り扱いについて伝えていきます。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		○サインなどを活用したり、視覚的な支援をしています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		○ボランティア、中学生の職場体験、子ども施設職員向けの見学会等で地域の方々の受け入れをしています。	
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		○マニュアルを作成し、毎月訓練を実施しています。	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		○市とも協力して訓練を実施しています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		○入園時に健康調査票に基づき、聞き取りを実施しています。必要に応じて、医師からの情報提供や、指示をいただくようになっています。	

非常時等の対応	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		○医師の指示に基づき対応しています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		○毎日の療育準備の中で、環境整備を実施し、設備環境、または人的環境として安全であるように配慮しています。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		○保護者会で説明をしています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		○事業が起きたときにすぐ、ミーティングで共有して再発防止策を検討しています。	●どんな場面でのヒヤリハットが多いかをデータで分析していくなどの工夫も必要です。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		○年度初めや年度途中にも折に触れて話をして、意識できるようにしている。 ○研修の機会を設けている。	●支援に悩む職員を孤立させないよう、風通しのよい職場づくりを心掛けていきます。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		○マニュアルに定めています。	